

県立須賀川桐陽高等学校

実施期間・参加人数・滞在都市・現地交流校について

平成26年8月3日(日)から8月11日(月)まで9日間、生徒22名(1年生13名、2年生9名)が、オーストラリアのニューサウスウェールズ州メイトランド市にある姉妹校メイトランド・グロスマン高校(12～17歳)の生徒たちと交流し、ホームステイ研修を行った。

実施概要について

8月4日(月)の早朝シドニー空港に到着し、シドニー市内を見学した後、約160キロ北に位置するメイトランド・グロスマン高校で、ホスト生徒とホストファミリーに対面した。

ホスト校では、朝の全校集会で歓迎セレモニーが行われ、代表者の説明とともにお土産の白河だるまを手渡して、お互いに目を入れ合った。その後、ホスト生徒と一緒に授業へ参加したり、英会話の授業を受講した。さらに、アボリジニー文化独特のデザインについての説明を受けた後、ブーメランに絵付けをして飛ばしたり、ダンスを習ったりした。

また交流活動では、福島現状を伝えるプレゼンテーションを行うとともに、グロスマン高校の生徒が実施したプレゼンテーションによって、オーストラリアのエネルギー事情について学ぶことができた。

その他、ホストファミリーとドルフィンクルーズやオーストラリア特有の動物に触れることのできる動物園への遠足などの野外プログラムを楽しんだ。さらに、自己紹介アルバムとともに、家族や日本の風習・行事について説明しながら、お土産に持参したコマやけん玉、折り紙などで、日本の遊びを一緒に楽しんだ。8月9日(土)は終日ホストファミリーと過ごした後、全体でのお別れ夕食会があり、ブッシュダンスやゲームを通してさらに交流を深めた。翌10日(日)の正午にホストファミリーに別れを告げて、シドニーへ移動した。

ホスト校やホストファミリーが温かく迎えてくれたことで、生徒たちは充実した研修を行うことができた。



アボリジニーデザインのブーメランの絵付け



英会話の授業

### 福島現状発信や現地におけるエネルギー学習について

#### (1) 福島現状発信について

生徒たちは、5月末から週1回行ってきた事前研修で7班に分かれ、東日本大震災と津波・原発事故の被害や復興計画、復興状況、エネルギー問題と再生可能エネルギーについて、福島県ならびに須賀川市の紹介や学校紹介など、それぞれのテーマについて調査を進めながら、パワーポイントでのプレゼンテーション資料を作成し、メイトランド・グロスマン高校の生徒4クラス80人に対して発表を行った。研修直前には発表練習を重ねてきたため、福島が復興に向かって頑張っている現状を落ち着いて伝えることができた。グロスマン高校の生徒たちも、写真やグラフを使っただけのプレゼンテーションへ真剣に耳を傾けるとともに、プレゼンテーション内容に関する三択クイズでは、答えと思うものに手を挙げてくれるなど反応も良かった。

また、福島からの訪問ということもあり、ホストファミリー宅でも福島の現状や生活の様子について聞かれることがあり、それぞれに話をしてきたようである。

#### (2) 現地におけるエネルギー学習について

グロスマン高校の生徒たちが、パワーポイントを使いながら、オーストラリアのエネルギーについてプレゼンテーションを行ってくれた。豊富な天然資源に恵まれたオーストラリアでは、石炭・石油・天然ガスなどによるエネルギー供給が主であるが、再生可能エネルギーへの期待も高まっており、広大な土地を生かして、既にバイオ、水力、風力、太陽光発電を大規模に行っていることなどを学ぶことができた。

### 発表原稿の一部抜粋

Now we'd like to start a presentation about our life in Fukushima and about energy problems. We consist of seven groups and each group is going to talk about one topic. We are going to talk about our school, Sukagawa and Fukushima. Then we'll talk about the Great East Japan Earthquake and the accident of nuclear power plant. Finally we'd like to talk about energy.

Some groups are going to give you a quiz with three choices. So please make a guess and raise your hands to show your answer!

### 実施後の成果について

生徒たちは、相手を理解し自分の気持ちを伝えることで、何とかコミュニケーションをはかろうと毎日過ごす中で、文化は違ってもお互いを認め合い、心の通う関係を築くことができたことを体験した。また、英語を使っただけのコミュニケーションを実践したことで、英語学習への意欲をさらに高めた。

また、日本文化の紹介、交流活動における福島の現状についてプレゼンテーション、オーストラリアのエネルギー事情についての学習を通し、福島県民としての自覚を持ち、福島の復興や再生可能エネルギーの推進において、自分たちにこれから何ができるかを考えるようになった。姉妹校を訪問し交流を深めたこの経験は、生徒たちの視野を広げ、今後の人生にとって大きな財産になったと確信する。これから研修体験記を作成し、全校生に配布してこの経験を伝える予定である。